**卒研History**

主に決定事項、話し合いで方針・問題点が挙がったものについての履歴。（チームとしての作業ログも）

**5/21(金)**

●報告書で各自が挙げた問題点について、どうしていくか

　Q.環境設定等は誰かの画面を共有しながらやるのは？

→A.完璧にマスターしている状態であれば有効。今後検討。

Q.目的・定義確認のための決定事項等をまとめたHistory作るのはどうか？

→A.今後長井がつくって適宜共有。

Ｑ.djangoの学習をどう進めていくか。全員の目的の一致を確認する機会を設けるのはどうか？

　→Ａ.今日はチュートリアルを続行。次回以降は使用する機能をある程度絞り、効率アップのため機能

ごとに担当を決めての学習を検討。

（その機能については人に聞かれたときに説明できるぐらいが理想的）

　　今日のような目的の確認機会を設ける。

　　この時点ではdjangoについてチュートリアル以外での学習者なし。

　Q.gitの変更履歴の整理

　→Ａ.プル・プッシュ・コミット等でどうしたらトラブルがおこるのかを各々まだ認識できていない。

●GitHubでの報告書提出について

　Q.reportディレクトリ下に日付ごとにフォルダを作成してよいか？

　→A.report下であれば作成ＯＫ（anser：池上T）

○作業ログ

　・問題点についての話し合い

　・各自でdjangoチュートリアル

**5/25(月)**

●これからの進め方

　Q.アプリを作り始めて機能を決めるところが出てきたら、適宜話し合うor先に機能を絞り込んでから担当割り振る

→A.登録・認証など使うことが確実な機能だけ先に絞り込んで、担当を割り振る

●機能担当分け

青木　　　　情報集め・テキスト作成Forms・ユーザビリティ・研究内容

　渡辺・澤野　データベース（軽く画面作ってログイン検証）

　清・長井　　画面レイアウト（色については研究によって後ほど変える）→終わり次第ログイン機能

●提出先リンクを自分たちで作るのか、formsで代用するのか。

→Formsで代用する場合、もともとつける予定だった生徒側から提出の有無を確認できる機能をどう実装するのかが難しい。調査の後、要検討。

●フィードバック　From池上T

研究について→順番が違う。アプリ→研究ではなく、研究→アプリじゃないと意味がない。

〇作業ログ

　各担当ごとに作業

**6/2(水)**

●卒業研究の進め方について、再構成を行った。

現時点：アプリ作成が先　→　以降：研究優先（研究内容は「チームＮ\_研究方針」参照）

既存のアプリを方式ごとに分けて調査。

既存アプリはビジネス向けが多いので、

・同方式ごとのアプリの差を検証

・アプリ調査の上で学生向けにメリットになりそうな項目・デメリットになる項目の洗い出し

を行い、分析する。

●研究対象アプリ(各5つ)の絞り込みを行う。(途中で授業終了)

**6/4(金)**

●前回の続きで研究対象アプリの絞り込み。

調査時に必要な観点の統一化（調査の目標決め）を行い、1つ調査が終わるたびに全員で

レビューを行う事を決定。

（レビュー目的：調査レベルの統一、観点の確認）

〇作業ログ

各自で担当のアプリの調査（カレンダー方式）

**6/8(火)**

〇作業ログ

引き続き調査

**6/10(木)**

〇作業ログ

カレンダー方式調査レビュー

**6/14(月)**

●1回目のレビューが終了し、追加調査。方式ごとの調査終了後に相関を検証することに決定。

（研究方法については研究方法のWord参照）

〇作業ログ

カレンダー方式追加調査。終わった人はToDo方式。

長井は分析。

**6/22(水)**

●研究の定義について先生のレビューから代替案について話し合い。

検討した内容で進めていいのか、先生に再度確認を取る。

（待つ間既存の方針で作業を続ける）

以下検討内容

　調査終了後、可視化状態（使われている色・文字の大きさ・１画面で見れる情報の量）と機能（アプリに何を組み込むか）の２つの観点で情報の抽出を行う。

↓

現存する理論（別途参照）とアプリ調査から抽出した情報（色・向き等の特徴）と

合わせて考察し、チームとして1つの仮説を立てる。

↓

仮説をもとにレイアウト作成（１案or２案。2案作って比較し、結論に結び付けるのは無し？）

同時に他の画面もレイアウト作成し、画面遷移も。

↓

アプリ作成（必要な画面優先）

↓

結論